

令和5年11月7日（火）



11月4日（土）に、来賓32名、参列者36名、児童15名、教職員11名の総勢94名で、創立150周年記念式典を無事開催することができました。以下、校長式辞をとりまします。

猛暑続きだった長い夏がようやく過ぎたと思いきや、足早に秋が深まり、桜の老木に囲まれた手ノ子小学校のグラウンドを、朝霧が包むようになりました。

本日は、飯豊町長後藤幸平様、飯豊町議会議長菅野富士雄様、飯豊町教育委員会教育長熊野昌昭様をはじめ、地域、保護者、祖父母学級を代表する皆様、歴代の校長先生方にご臨席を賜り、飯豊町立手ノ子小学校第150周年の創立記念式を執り行うことができますこと、校長として大変感慨深く、また大きな喜びでございます。学校を代表いたしまして、厚く御礼申し上げます。

これまでの手ノ子小学校と中津川小学校の歴史を紐解いてみますと、明治6年、現在の源居寺に、手ノ子村高峰村の両村合同で、手ノ子小学校を置いたとあります。一方の中津川小学校は、現在の学校教育制度の始まりである「学制」が発布された明治5年、当時の上原の雲洞庵を借りて中津川学校を開設したとあります。開校以来、明治、大正、昭和、平成と時代が変わりゆく中、手ノ子小学校、中津川小学校ともに、幾多の変遷を辿ってきました。そのような中で、子どもたちのひたむきな努力と、歴代の校長先生、教職員の熱意と献身的な指導、そして、保護者、地域の皆様の多大なるご支援とご協力は、両校ともに変わることなく、輝かしい歴史を築いてきました。

しかしながら、最大で約五百名の児童数を誇った中津川小学校も、平成25年に140年という長い歴史に幕を下ろし、手ノ子小学校に統合になりました。そして、10年の月日が流れ、時代は令和へと変わった現在、最大で約650名の児童数を誇った手ノ子小学校も、令和8年度の義務教育学校開校に合わせ、長い歴史に幕を下ろそうとしています。これまで長きに渡り、行政・地域・家庭・学校が一丸となり、子どもたちの教育に情熱をもって真摯に取り組んでいただきましたことに、心より敬意を表したいと存じます。

在校生の皆さん、今、君たちは、開校150年という記念すべき時に立ち会えたことを共に喜び合うとともに、長い歴史と伝統を誇る本校で、学校生活を送れることへの感謝を忘れてはなりません。創立記念誌や記念の石碑の題字となり、今も学校便りの題名として引き継がれている言葉を覚えていますか？そう、「翔く（はばたく）」です。この「翔く（はばたく）」という言葉には、地域と共にある学校「手ノ子小学校」を築立つ子どもたちが、時代の波を乗り越え、未来に向かってたくましくはばたいてほしいという、手ノ子・高峰・中津川地区の皆さんの願いが込められています。

君たちは、新型コロナウイルス感染症の流行が収まらない中でも、少人数のよさを生かし、五感を使った体験的な学習をできる限り経験してきました。全校遠足や宿泊学習、クラブ活動や放課後活動「わくわく3KEN広場」、総合的な学習の時間などを通して、手ノ子・高峰・中津川地区の自然や文化、人々と触れ合い、よさを学んできました。義務教育学校では、今の1年生は4年生に、今の4・5・6年生は7・8・9年生になります。新しい仲間と学習することになっても、ふるさとである手ノ子・高峰・中津川地区のよさを飯豊町の魅力として広め、地域とのつながりを大事にしてほしいと思います。

結びに、創立150周年にあたり、本日まで様々な記念事業を展開し、盛大にお祝いしていただきました実行委員会の皆様に改めて感謝申し上げますとともに、教職員一丸となって、これまで以上に、「進んで学び 心優しく たくましい手ノ子小の子」の育成に全力で取り組んでまいりますことをお誓い申し上げます。本日は、誠におめでとうございます。

令和5年11月4日

飯豊町立手ノ子小学校長 高橋 浩

令和5年11月11日(土)



本日、「響け、わたしたちの音楽と心、めざみの里に、人々の心に」というコンサートタイトルのもと、第28回めざみの里音楽祭が開催されました。

開会式で、ご来賓を代表して、後藤町長様からご挨拶を頂戴しました。その際、子どもたちに直接、「1年生から中学3年生の児童・生徒は、令和8年度からは1つの学校に通うことになる。毎日、みんな同じ校歌を歌うことになり、仲間がたくさん増える」といった義務教育学校についてのお話をさせていただきました。

手ノ子小の子どもたちは、こども園の発表の際、運動会の新人児種目に出た園児を探したり、他の小学校の発表の際には、交流学习で一緒になった同級生を探したり、中学校の発表の際には、手ノ子小学校出身の先輩を探したりしながら鑑賞していました。

そういった、自分とつながりのある仲間を意識しているせいか、自分たちの出番前には、これまで以上に緊張した様子でした。

しかし、その緊張がよい方向に作用して、本日の発表は今までで一番大きな声、大きな音、大きな動きで発表することができ、観客からも度々大きな拍手をいただきました。子ども園の園児たちも楽しんでくれたようですし、こども園や他の小学校の先生方からも直接ほめていただいたようです。

これまでは、日頃お世話になっている地域の方々への感謝の気持ちを込めた獅子舞でしたが、本日はさらに、飯豊町内の子ども園、小学校、中学校の仲間へ元気を届けることができた素晴らしい獅子舞でした。

令和5年11月21日(火)



本日、飯豊中学校の校長先生が、6年社会科の出前授業に来てくださいました。内容は、「江戸時代の町人の文化と新しい学問」のまとめの学習でした。

導入は、最近の相撲の番付表の資料提示でした。最近の子どもたちは相撲のことをあまり知らないので、「横綱」「大関」「関脇」「小結」…と強い順に位を表したものだということを確認してくださいました。その後、江戸時代の番付表の資料を提示してくださいました。「諸国産物見立相撲」と

いう資料で、出羽の紅花が東方の関脇なので、江戸時代に3番目に人気があったことを教えてくださいました。

そして、「みなさんにも番付をつくってほしい」と、「近松門左衛門【歌舞伎】」「杉田玄白【蘭学】」「本居宣長【国学】」「伊能忠敬【日本地図】」「歌川広重【浮世絵】」の5人の肖像画を掲示してくださいました。学習のめあては、「番付表を作り、江戸の文化や学問の発展に、だれがどのように力をつくしたか話し合い、功績をたしかめよう」というものでした。

社会科を専門にされていた校長先生だけに、子どもたちの興味・関心を引き付ける導入と目指す姿を明確に示した課題設定に、担任もとても勉強になったと喜んでいました。今年度、町内4小学校の全てで出前授業を予定されているということで、来年度の入学児童の様子を、校長先生自らが授業を通じて把握されていることに敬服しました。

6年生は、今回の出前授業の他にも、中学校での数学の集合学習、運動会や新人戦壮行式への参加を経験してきており、中学校進学への希望を膨らませています。「中1ギャップ」の解消に向けて、小中連携を推進して下さっている校長先生をはじめ飯豊中学校の先生方に、改めて感謝申し上げます。

令和5年11月29日(水)



本日の2校時に、飯豊中学校の理科担当の先生が、先週の校長先生に続き出前授業に来てくださいました。5・6年複式を対象に、①中学2年で学習する静電気、②中学1年で学習する電気の種類、③電流とは何か、④中学3年で学習する化学電池について、実験しながら楽しく授業を進めてくださいました。

はじめに、①～④までの学習内容を一覧表で示し、見通しをもたせてくださいました。そして早速、静電気についての実験の準備に入りました。

次に、先生の説明通りに残りのストロー2本をティッシュでこすりました。そして、ストロー2本のうち1本の中央にまち針の穴が開いているのを見付けると、まち針を真横から突き刺し、そのまま紙コップのストローにヤジロベエのように刺しました。そこで先生は、最後に残ったストローを、ヤジロベエのようなストローに近づけるよう指示しました。

すると、所々から歓声が上がりはじめました。見てみると、ストローが触れていないのに、ヤジロベエのようなストローがプロペラのように回っていました。先生は、一人一人に声をかけながら机間指導し、上手くできない子どもには個別に対応してくださいました。

先生は、全員が実験に成功するのを見届けた後、磁石にS極とN極があるように、電気にも+（プラス）と-（マイナス）があって、この場合、ティッシュが+（プラス）だから、2本のストローは-（マイナス）同士となって反発するという静電気動くストローの仕組みを説明してくださいました。

このように、子どもたちの身近にあるものを一人一人に準備して下さり、主体的に実験に参加できるようにして下さったことや、実験を通して、電気や電流の難しい仕組みを分かりやすく教えてくださった教科の専門性に感心しました。改めて感謝申し上げます。

令和5年11月30日(木)



本日、町制施行65周年を記念し、飯豊町役場本会議場にて、いい子ども議会が開催されました。本校からは、6年生2名が子ども議員となり、飯豊町版「黒獅子祭り競演会」の開催について、後藤町長さんに対して一般質問という形で提案をしてきました。

4～6年年生の子どもたちは、今年度のクラブ活動で、手ノ子八幡神社獅子連中の皆さんにご指導いただきながら、獅子舞に取り組んできました。実際に体験してみると、獅子舞や獅子彫りについて興味が湧いてきて、総合的な学習の時間で調べることになりました。そして、手ノ子八幡神社獅子連中のお二人をゲストティーチャーとしてお招きし、Q&A方式で学習しました。学習したことを12月の授業参観で発表するために、「獅子舞」「巫女の舞」「獅子彫り」のグループに分かれて活動していました。

そのような中、6年生4人のうち2人が子ども議会の議員として参加することになり、6年生で「町議会プロジェクト」を立ち上げました。そして、飯豊町のイベントについて保護者にアンケートを取ったり、長井市と飯豊町の観光協会に電話したりして情報を集め、担任の指導の下、整理・分析して一般質問としてまとめました。

6年生の子どもたちは、「町議会プロジェクト」の活動を通して、飯豊町の無形文化財に指定されている大切な地域の財産である獅子舞を体験したことを、SDGsの「住み続けられるまちづくり」という視点で捉え直し、思考・表現する活動につなげることができました。そして、子ども議員の2人は、「飯豊町をより他地域にPRし、経済的に豊かになるために」という視点と、「飯豊町をより活性化させ、人口減少に歯止めをかけるために」という視点から、それぞれ飯豊町版「黒獅子祭り競演会」の開催について主張することができました。

後藤町長さんからは、「農業の盛んな町なので、町の復興や厄払いのためにもめざまみの里祭りで『黒獅子祭り競演会』をするのは大賛成。人員、経費、時間の確保等難しい面もあるが、実行委員会で募金を集めるなどして来年度以降実現できるように検討していく」といった前向きなお返事をいただきました。2人の子ども議員は、質問の前はとても緊張した面持ちでしたが、終わった後は、サポートしてくださった町議会屋嶋議員さんと舟山議員さんに褒められ、やり切った表情を見せていました。